

## 卒業論文という課題が大学にある意味は……

卒業論文課題に悩める学生から、次のようなメール。

【 4月に卒論の構想発表もあるため、そろそろ取り掛かったほうがいいのかなんて考えているところなのですが、実はやりたいことが明確にならないんです。いつも漠然とは考えるものの、1年間意欲を持って取り組めるかという自信はないですし。

卒論のテーマを考えると、どういうことを手がかりにそれを明確なものにしていったらいいのでしょうか？

ヒントをいただけたら嬉しいです。よろしくお願いします。 】

厚かましく次のように返信した。

【 まず、何をやりたいか、何に関心あるか、自分の今の漠然とした気持ちでいいから、それを自分に語りかけるように文章にしてください！

人は、頭の中で考えるだけでは中々整理できないもの。文書にすることが、一番頭の中の整理に役立ちます。

往々にして、人は考えが纏まってから文章にしようとしませんが、その逆ですからね。

文章化することが、考えを纏める作業です。書いては捨て、捨ててはまた書く。

自分だけでは中々纏らないからこそ、その過程で書いたものを指導教官やゼミの仲間に見て貰い、アドバイスを貰って、また書き直す。

この作業の過程こそが、卒論なのです。

きれいに卒論を纏めようなんて最初から考えないこと。

悪戦苦闘する過程こそ大事だから、卒論という課題が大学にはあるのです。

みんなに見て貰うのは、恥ずかしいなんて思わず、解らないからこそ、みんなの助けを求める勇気をまず持つこと。 その方が、結果的には、徳だし、楽だよ。

言い換えれば、「人生を過ごす」という課題も、悪戦苦闘しながら「日常生活」という文章化の作業過程そのものと云えるかもね。

自分がこんなにHPで発信し続けているのも、何かで自分が感じたこと、思ったことを文章化することで、より自分の中でその考えを確認したい作業と思っています。そして、みんなからコメント・アドバイスを貰って、更に思索を重ねている訳です。

人間の考えることに、「これでいい！」というゴールなんてないですよ。

文章化したものを、いつでも見るお手伝いはできますよ。遠慮なくメールで送信ください。 】

(2006年3月1日 記)